

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
53

振興協議会だより

〔発行日〕 令和4年2月28日
〔発行〕 苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕 025-765-1600



第7回苗場山麓ジオパークフォトコンテスト結果発表

毎年、たくさんの方からご応募いただいている苗場山麓ジオパークフォトコンテストは7回目を迎えました。今回は過去最多となる44名の方から274点の作品が届きました。学生部門では小学生からの応募もあり、大変嬉しく思いました。ご応募いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。

2月14日(月)、なじもんにて写真家の方をはじめとする審査員7名で審査会を実施し、力作ぞろいの中から最優秀賞、各部門賞、審査員特別賞、各スポンサー賞が決定いたしました。

誌面では最優秀賞と春夏秋冬部門優秀賞を掲載いたします。各賞の詳しい結果は苗場山麓ジオパークのホームページ (<https://naeba-geo.org>) に掲載しています。バラエティに富んだ作品の数々をどうぞご覧ください。



最優秀賞「春の宴」 若狭 久男



春部門「布岩に春」
平野 悟



夏部門「瑠璃色の美滝」
下 育郎



秋部門「秋じまい」
川崎 正義



冬部門「スノーシューで自然観察」
小林 幸一



大地のたからもの～苗場山麓ジオパーク特産商品ご紹介⑦～



【いろいろきのこのなめたけ】越後田中温泉 しなの荘 ※宿泊した方に提供しています
〒949-8205 新潟県津南町上郷 ☎025-765-2442 8:00~22:00 ⑥無休(不定休館期間有り)

ジオストーリー

苗場山麓の深い森にはたくさんのキノコが生えています。乾燥や塩漬によって保存もきくことから、とても大事にされてきた食文化の一つです。そんな野生のキノコと栽培キノコをふんだんに使った「いろいろきのこのなめたけ」。ご飯が何杯でも食べられます！



令和4年度 苗場山麓ジオパーク学術研究活動募集のお知らせ

苗場山麓ジオパークエリアを対象とした調査研究活動について、大学院生、研究者等を対象に地質学・地形学・考古学・歴史学・地理学・民俗学・植物学・生態学・社会学・観光学などの調査研究費の助成を行っています。1件あたり上限10万円。ただし助成対象となる研究は1人、または1グループあたり1件とします。

※詳細は苗場山麓ジオパークのホームページ (<https://naeba-geo.org>) 令和4年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金募集ページをご覧ください。【応募締切】令和4年3月4日(金) ※当日消印有効



〈再審査に向けてひた走る室長日誌3〉

新しい年を喜び、一日一日を確かに歩み小正月を越え、大寒で多雪環境の災いと恵みを考え、節分を迎えて新しい季節へ期待が膨らむ今日この頃です。

過日、日本ジオパーク各地域の再認定の結果が届き、各ジオパークの取り組みと地域振興が評価され、レッドカードを頂いたところが無かったことを知り嬉しく思いました。

さて、2022年秋季は、苗場山麓ジオパークの再審査です。再審査を迎えるに当たり、なぜに本地域がジオパーク活動をするのかという本質的な議論を自分なりに自問自答してみました。まさしく「地域資源の保全」であり、それを知らしめる普及啓発活動としての「ジオ学習の展開」です。

ここでいう地域とは、苗場山麓に広がる長野県栄村と新潟県津南町の行政区域全てです。県境を跨ぐ「資源の保全行政ガバナンス」を効かせるための準備運動がようやく始まったばかりです。例えば、栄村には「自然環境保護条例」が制定されていますが、津南町には自然環境を保護する条例はありません。しかし、条例が制定されていても具体的な運用が円滑に進められていなければ自然環境を保護することは難しいことです。

条例で自然環境を保護することも大切ですが、地域住民の意識で尊い自然環境を保護することが何よりも重要だと思う気持ちが大切です。

しかし、そこには常に「価値共有の壁」が立ちはだかります。「自然環境はみんなのモノ」という意識。だから「大切にしよう」という価値の共有が求められます。そのためのジオ学習は小学生に大きな効果をもたらします。地域資源の科学的認識を背景にした認識と誇りは、郷土愛を育成します。その思いを伝える。どのような方法で伝えるのか。広報誌、新聞、プレゼンテーション、様々な伝える方法を通して、自らの意見を他方に伝える方法を実践し、身体で学びます。

例えば、津南小学校で「自然環境と災いと恵み」を学んだ児童が高校に進学し、自らが「地域の地質環境と水害」を調べ、それを元に「防災学習」を企画し、津南小学校に赴き、後輩に対して防災学習の講師を経験するという出来事が生まれています。その仲間が、PRソング「Takaramono」を作り、「津南はただの田舎じゃない」と歌い、当時の町長や教育長の目頭を熱くさせました。彼らはすでに18歳になり、未来を見つめ確実に歩き始めています。

このたび上郷小学校の児童は、これまでも全校キャンプにおいて、山伏山に登ったり風穴を感じたりなど学区内のジオサイトを巡り学習を展開しています。5、6年生の総合学習では、「修学旅行 in TSUNAN」一小さな町の大自然（日本一や世界一がある町）と題した活動を行いました。エリア内の修学旅行先に適した最も魅力ある場所を探し出し、20個以上の2時間滞在のメニュー表を作り上げました。このメニューを選んで組

み合わせることで、修学旅行のコースとなります。メニュー表には様々な項目案があり、苗場山麓ジオパークの認定ガイドによるジオパーク学習や長野県北部地震をテーマとした防災学習、上郷小学校との交流も組み込まれており、本エリアに修学旅行先として来てもらう商品となりうるものとなっています。

また、新型コロナウイルス予防対策や各関係機関との連携、情報発信など課題もきちんと見つけています。

今後、これらをさらに膨らませて1冊の冊子になる予定だそうです。より多くの人に見てもらい、本エリアの魅力を通じて修学旅行先として来てもらえるようになることを願っています。



「修学旅行 in TSUNAN」プレゼンテーションの様子

これら全て児童を対象とする「ジオパーク学習」の成果として生まれ、動き出しています。この素晴らしい価値の共有は、「法」を振りかざすよりも素敵な「意志」だと私は思います。

津南町は、「苗場山麓ジオパーク自然資源・文化資源保護憲章」を謳うことから始めました。すなわちスローガンです。みんなで謳うスローガンから、心が学び、身体が動き、手と手を携える活動に広がることの大切さを児童と共に語り、考えています。児童・生徒は「未来のリーダー」です。地域を牽引するリーダーの卵が児童・生徒です。

縄文の昔から深山には山の神が居て、深山に入るルールがあり、それを私達は守り伝えてきました。だから深い森が苗場山麓に残されています。その森に3mもの雪が降り積もり、春になれば静かに消え、森の土壌に吸い込まれ、約40年の歳月を掛けて大地のあちこちに湧水として現れます。その精霊の水は、田畑に引かれ、作物は太陽の日差しを浴びて生き生きと育ちます。その一つ一つの科学的意味を知り、それを大切にしてきた雪国文化の知恵の尊さにも関心が広がり、そこに「学びの大樹」が作られます。

苗場山麓ジオパークが牽引する地域振興は、自然環境と歴史文化を背景とする「学びの大樹」体験型ツーリズムです。すなわち「災いと恵み」を知り、生き抜いてきた雪国の知恵と文化（自然を尊ぶ考え）を学び活かす学びの体験ツーリズムです。

ジオパークは「学びの大樹」であり、資源環境を保全するプロジェクトなのです。

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

斎藤 文成さん



歴史を体感・仙当城（ガイド No.43 斎藤 文成さん）

苗場山麓ジオパークの自然資源・文化資源保護憲章に定めた4項目の最初に、「自然の中で遊び、自然と共に育とう。」と記されています。大きなブナ林に囲まれた栄村月岡の山城、仙当城が令和4年1月27日に、村の文化財に史跡指定され、山林所有者の中の月岡生産森林組合にも指定書が届きました。



戦国時代、ここに山城の仙当城が築かれました

去る11月13日(土)に、栄村自然学校の案内役を頼まれて、村の子供たちと登って、山城の学習や宝さがしゲームをして楽しんで来ました。子供たちを案内するのは初めてだったので、戦国時代に築いた山城の背景をむずかしい言葉を噛み砕いて、わかりやすくお話をしました。

平安時代から戦国時代までの400年に渡って、現在の栄村の地を治めた市河氏は、戦国時代に30年間は武田

氏に組し、その後17年間は上杉氏に属した歴史があります。上杉家は領地を会津（福島県会津若松市）へ移した後、次に米沢（山形県米沢市）へ移りました。それに伴って、上杉氏と共に栄村を離れた市河氏の子孫は、明治時代に屯田兵として北海道の釧路に移住しました。以前、山形県酒田市の本間美術館に眠る市河文書を拝見する機会がありました。平安時代から記された地方豪族の暮らしがわかる貴重な国の重要文化財の武家文書です。市河氏はなんと壮絶な運命をたどったことでしょう。令和の時代に入って、月岡の仙当城の更に奥地の雨引地籍に山城が見つかったという話が出てきました。詳しい調査は今後に期待するとして、新たな歴史ロマンを感じざるを得ません。

先日、栄村秋山郷観光協会から、今度新しく観光案内人制度を始めるので説明会に来てみませんかとお誘いがありました。ガイドも幾多の不安はあるけれども、米沢藩主の上杉鷹山が残した「なせば成る、なさねば成らぬ何事も」の精神で頑張るといたしましょう。





ガイドが考える 歩いて楽しむ「苗場山麓ジオパークツアー」案のご紹介③

『秋山記行』は、今から194年前（文政11（1828）年）、鈴木牧之が塩沢（南魚沼市）を起点に、桶屋の団蔵とともに秋山郷をわずか6泊7日で旅をした記録です。何といっても驚きは、牧之一行の健脚ぶりです。旅の1日目に、塩沢の自宅から旧十二峠の山を越え、葎沢～所平～野土（現在の太田新田）を越え、概ね20km以上の道のりを歩き、見玉まで到達しているのです。田代・所平あたりから現在の中山・太田新田までは、迷いやすい道で難渋したようです。当時の道は、当然のことながらアスファルト舗装ではなく、人が通れる程度の道であったと思われます。

～牧之の足跡をたどる～

時間（始～至）	所要時間	場 所	備 考
10:00		★とねんぼ集合 出発	・人数：10人以下 ・条件：健脚な方 ・対象：鈴木牧之をはじめ歴史が好きな方 ・巡る場所：鈴木牧之が歩んだ道 ・昼食は野外にて弁当、雨天時はバス車内 ・わらじで歩く区間あり *所要時間は、移動時間を含んでいます。
10:00～10:20	0:20	和山まで移動（バス）	
10:20～12:30	2:10	上野原まで移動（徒歩） 牧之の気持ちになって歩く ・紅葉（秋季）、景色、植物を楽しむ ・自然道を歩く	
12:30～12:40	0:10	移動（徒歩）	
12:40～13:20	0:40	★天池（昼食・弁当）	
13:20～13:30	0:10	移動（徒歩）	
13:30～14:00	0:30	★天池、上野原展望台散策	
14:00～14:20	0:20	移動（バス）	
14:20		★とねんぼ着 解散	

さて、このツアー案は、鈴木牧之が実際に辿ったとされる道を歩くツアーになります。午前10時、栄村秋山郷総合センター「とねんぼ」を出発し、和山までバスで移動します。和山から上野原まで国道405号線でなく、自然歩道を歩きます。道中は、樹木の紅葉などの自然景観や、秋の実がなる植物たちを観察しながら散策します。何といっても牧之が、当時、どんな気持ちで歩いたのかを想像しながら歩くのがこのツアーの特徴になります。また、天池から展望台までは、舗装道路を歩きますが、そこでは、わらじ履き体験を行います。わらじは、軽いものの雨でぬかるむ道では、さぞかし歩行が大変であったのではないかと推測されます。筆者は4年前に県境付近の牧之の道を出発し、小赤沢へのツアーで山坂を歩きましたが、「本当にわらじで越えたのだろうか」と疑問に思うような道のりを体験しました。当時の道中では、「牧之は、わらじを何足持参したのだろうか」など、話題が尽きませんでした。



今回のツアー案では、自然歩道をコースに取り入れましたが、このツアーを実施するためには、かつて牧之が通った道の整備が必要になってきます。牧之の辿った本物の道を歩いてみたい人には、このツアーは魅力的な商品になることでしょう。ツアー実現のために、将来を見据えた持続可能な戦略を打ち出すことが必要です。



突撃しよう!となりのジオ便り～白滝ジオパークからこんにちは～（白滝ジオパーク 山中 大志）

北海道北東部、オホーツク管内のほぼ中央に位置する白滝ジオパーク（遠軽町）は、日本最大級の埋蔵量を誇る『黒曜石』が主役のジオパークです。

黒曜石は、約220万年前の火山活動によって噴出した粘り気の強い溶岩（身近な食べ物で例えると、ピーナッツバターよりも強い粘り気）が、急速に冷え固まったことで誕生しました。結晶をほとんど含まないことから、火山が生み出した『天然のガラス』とも言えます。黒曜石は加工がしやすく、割れ口が刃物のように鋭いことから、主に旧石器時代から縄文時代にかけて石器の材料として利用されました。白滝地域には、約100か所もの旧石器時代（約2万年前）の石器製作跡の遺跡が所在し、道路の建設に伴う発掘調査では、700万点以上の黒曜石製の石器や剥片が出土しました。これは黒曜石が、当時の暮らしを支える重要な資源であったことを物語るものです。その重要性から国史跡や重要文化財に指定されており、出土石器は遠軽町埋蔵文化財センターに展示しています。このように白滝ジオパークでは、黒曜石を生み出した火山活動と、黒曜石を生活の道具として使用していた旧石器時代の人々の暮らしから、大地と人とのつながりを体感することができます。



黒曜石



白滝遺跡群から出土した石器 撮影：佐藤雅彦



白滝じゃが

さらに、白滝ジオパークの魅力は、町のシンボルである『^{がんぼういわ}瞰望岩（インカルシ）』とアイヌの洪水伝説や、風穴によって形成された多様な生態系、火砕流が堆積して固まった溶結凝灰岩を流れる『山彦の滝』など、火山に由来するジオサイトのほか、特産品の『白滝じゃが』があります。白滝地域の畑は、標高400メートル前後の河成段丘面上に位置しているため、夜間には夏場でも冷え込みます。この昼夜の寒暖差によって、でんぷん質が高くなり、甘みのあるホクホクとした美味しいじゃがいもが育ちます。さらに、畑の土は火山灰質で水はけがよく、栽培にも適しています。まさに、白滝の大地からの贈り物です。ぜひこの機会に、白滝ジオパークを堪能してみませんか？